

『小せにいれ』

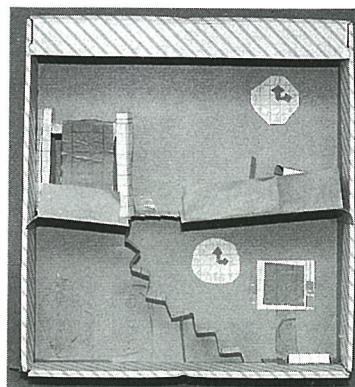
5年
越川 祥秀くん

※縫うところがむずかしかったです。



3年
赤尾 輝和くん

※こんな部屋に住んでみたいですね。階段を作るところがたいへんでした。



『すんでみたい部屋』



6年
鈴木 順子さん

※さくらの花や木が雑になつてしまいました。まわりの木や小屋がよくできました。

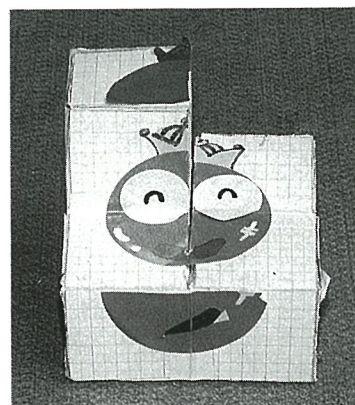


『さくら』



4年
大関 啓太くん

※重ねてのりでつけたり、ペンで書いてみました。



『かわるふしぎな箱』

ひかり歌壇

青柳 フミ (橋場)

木漏れ日の神苑ふかく落葉掃く
人と交せる朝のねぎらひ
落葉掃く見知らぬ人へ通い合う心は神苑
なればこそでしょう

椎名 静子 (二又)

病室の窓明け放ち新緑の
風と訪ひくる鶯の声
病室の佗びしさを払うべく作者の仕草に
応えるように鶯の音を聞き得た喜び

土屋 好 (虫生)

みちのくの山家彩る桐の花
ここにも人が暮らし営む
旅先きの山家に桐の花の咲くを見て鄙び
た暮らしに思いをめぐらす心情

高梨 キヨ (木戸)

支笏湖の出湯の宿の庭隅に
北キツネ現れパンを投げやる
旅先きの思いがけない一酌に心遊ばす
しき

「短評」 竹内 記葉